

2020年 感染防止対策室業務活動報告

感染防止対策室主査

荒木大輔

感染防止対策室長

今 信一郎

はじめに

感染対策の事務局としての役割を担っている感染防止対策室は、今年大流行している新型コロナウイルス感染症への対応や体制づくりに追われた。院内感染を発生、拡大させないという使命のもと、今まで以上に責任を感じた一年であった。その影響で、通常業務や計画していた取り組みは思うように遂行することができず、もどかしい思いも残った。以下に今年の活動内容を報告する。

1. 新型コロナウイルス感染症

(写真1・2・3)

1月8日のICT会議において、中国武漢市で原因不明の肺炎の集団発生が報告されていると周知したのち、その原因が新型コロナウイルスであることが判明した。世界中に感染は拡がり、新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年であった。1月16日には国内で初めて武

漢市に滞在歴のある神奈川県在住の男性より新型コロナウイルスが検出されたと報道され、1月30日にはWHOが「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を、3月11日には「パンデミック」の宣言がされた。日本では、2月1日に2014年の中東呼吸器症候群(MERS)以来の感染症法に基づく、「指定感染症」に指定され、2月13日に国内初の死亡例が発生、その直後、香港から日本に向かった大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」での船内隔離、国内医療機関への入院等の対策が連日大きく報道され感染者も増えていった。

北海道においては、さっぽろ雪まつりに関連したクラスターが発生し、2月28日には、鈴木知事が「北海道緊急事態宣言」を行い、週末の外出自粛等を要請した。

第二種感染症指定医療機関として感染症病床を有する当院は、その使命を果たすべく、全職員一丸となって、これまで経験したことのない感染症に向き合ってきた。インフルエンザ感染症対策として、入院患者への面会制限が継続される中、通常時は外来化学療法室として稼働している感染症病棟を1月30日より新型コロナウイルス感染症患者の入院に備え病床を整備し、2月24日、苫小牧保健所管轄の2名の患者を受け入れた。感染症病棟の稼働は2012年に感染防止対策室が開設して以来、初めてのことである。



写真1 感染症病棟の様子



写真2 病棟入室前にN95マスクを確認するスタッフ



写真3 本部会議の様子（提供：北海道新聞社）

我々の日常生活も一変し、「3密」の回避、「新しい生活様式」等々に合わせ、院内においても体制整備に追われた。4月16日には、入院患者情報や迅速な問題点の解決、各部署における協力体制の構築、保健所や他施設からの情報共有を目的に対策本部を立ち上げ、第1回目の会議を開催した。また、管内の流行状況に合わせたPhase別対応を作成し、各部署がPhase毎に感染対策を実施しながら勤務を継続できるようにした。病床数を4床から12床へ増床させ、さらには、職員の体温・症状入力システム「くじらんチェック」の開始、発熱者特別外来の実施、感染症病棟の透析対応工事、各病室への監視カメラ設置、感染症病棟従事職員への宿泊施設準備等、院内へウイルスを持ち込ませない対応やあらゆる患者層への入院体制を整えた。

12月末時点で、管内では複数のクラスターが発生し、当院においても延べ45名の入院患者を受け入れた。感染症病棟に従事する看護師をはじめ、患者と関わる全ての職員は、患者を守るとともに、自分の身も守りながらの業務となり、大きな精神的不安やストレスを抱えこの一年を過ごしてきた。

新型コロナウイルスの実態や感染予防策が次第に明らかとなり、ワクチン接種や治療薬の開発が進められている中、職員一人ひとりが基本的な感染対策を継続して確実に遵守し、全ての患者に対し標準予防策を徹底することを引き続き周知させていきたい。

2. MRSA・緑膿菌の在院患者当たりの陽性者率（図1・図2）

2020年におけるMRSA、緑膿菌の在院患者当たりの陽性者率は、昨年と比較し1.59%、1.97%とそれぞれ減少した。3年毎の陽性者率について著変はなかった。

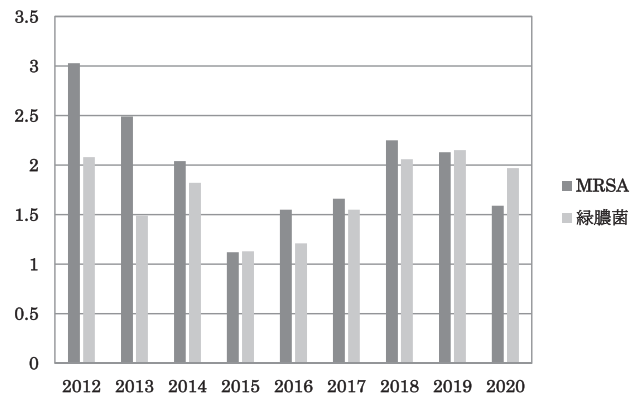


図1 MRSA・緑膿菌の在院患者当たりの陽性者率（%）

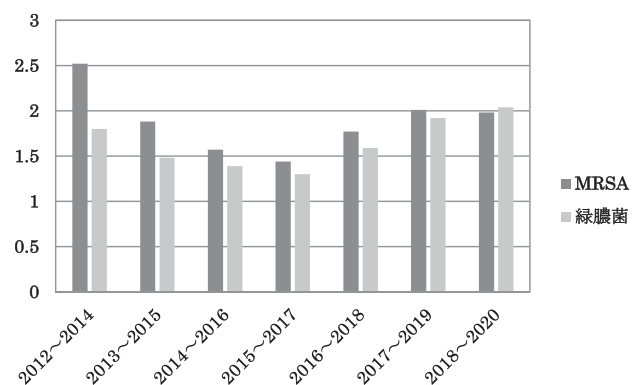


図2 3年毎のMRSA・緑膿菌在院患者当たりの陽性者率（%）

3. リンクスタッフ活動（表1・図3）

リンクスタッフは、自部署における感染対策の実践モデルとして、アルコール消毒剤使用量のモニタリング、問題点解決のための取り組み、連絡事項の現場スタッフへの周知徹底等の役割を担っている。活動発表会は7年目を迎え、今年も伊達赤十字病院より2名を招き、他施設での取り組みを聞き良い刺激となった。アルコール消毒剤については、新型コロナウイルス感染症対策の影響もあり、昨年より払い出し量、使用量とも増加した。

4. 西胆振感染対策地域ネットワーク（表2・3・4）

今年、小グループの再編成を実施し、加算2を算定するJCHO登別病院、室蘭太平洋病院、未加算の豊浦国保病院との連携の中で、日常的なコンサルテーションを基本としながら定期カンファレンスを開催した。今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月以降の全体合同カンファレンスを中止し、小グループでの開催とした。

表1 リンクスタッフ活動発表会

第1日目 1月17日(金)

| | 氏名 | 部署 | 演題名 |
|-------------------------|-------|------------|--|
| <1. 手指衛生> | | | |
| 1 | 菊地 穂菜 | 臨床検査科 | アルコール製剤使用量の目標達成に向けた取り組み |
| 2 | 土居慎太郎 | 3階東病棟 | 掲示物による手指衛生意識向上に向けた取り組み |
| 3 | 畠山 智子 | 内科外来 | 外来における手指衛生の正しいタイミングの再知識 |
| 4 | 早川 武志 | 4階南病棟 | アルコール製剤使用量を上昇させるためのスタッフへの効果的な関わり ～直接評価を行って～ |
| 5 | 太田 愛 | 6階西病棟 | 手指衛生強化活動 ～ハンドモイスチャーローションを使用して～ |
| <2. 個人防護具> | | | |
| 6 | 片桐 瑞穂 | 6階東病棟 | PPE マニュアルの定着 |
| <3. 環境整備> | | | |
| 7 | 五十嵐達也 | 救急診察室 | 処置車の感染リスク低下へ向けた取り組み |
| 8 | 金子 幹弥 | リハビリテーション科 | 白衣の交換が週2回になったことによる汚染状況の追跡調査と交換率向上に向けた取り組み |

第2日目 1月21日(火)

| | | | |
|--------------------------|-------|--------|---|
| <1. 手指衛生> | | | |
| 1 | 松村 知憲 | 中央手術室 | 手指消毒の5つのタイミングの周知と使用量の向上を目指して |
| 2 | 田中 洋亘 | 地域連携室 | 患者と直接的な接触がない職員における手指衛生の必要性の理解と意識向上の取り組みについて |
| 3 | 山本 章暁 | 日清医療食品 | 厨房における手指衛生の向上 |
| <2. 環境清掃> | | | |
| 4 | 菅原 直也 | 4階西病棟 | ワゴンカートの清潔保持への取り組み |
| 5 | 伊藤 愛 | 4階東病棟 | クーリング袋の取り扱い ～クーリング袋の清潔への意識向上を図り、感染予防に繋げる～ |
| 6 | 中島 登子 | 放射線科 | 放射線防護プロテクターの整頓と清掃 |
| <3. 感染防止技術> | | | |
| 7 | 中道 真理 | ICU 病棟 | 気管吸引手技と感染管理 |
| 8 | 山田奈津美 | HCU 病棟 | 喀痰吸引の見直し ～必要な時に正しい手順で～ |

第3日目 1月24日(金)

| | | | |
|--------------------------|-------|-------|--|
| <1. 手指衛生> | | | |
| 1 | 窪田 康正 | 5階東病棟 | アルコール使用量増加に向けた取り組み ～手指衛生5つのタイミングの意識付け～ |
| 2 | 丸谷 太一 | 2階南病棟 | 精神科入院患者を対象とした手指衛生指導 |
| 3 | 西山加那子 | 薬局 | 手指衛生アルコールの個人携帯運用の効果 |
| <2. 感染防止技術> | | | |
| 4 | 平野江梨花 | 3階西病棟 | 口腔ケアシートを用いた口腔内環境の改善 |
| <伊達赤十字病院> | | | |
| 5 | 鈴木 聖子 | 6階病棟 | 血液感染0を目指した取り組み ～意識調査から見えてきた課題～ |
| 6 | 南 真由美 | 5階病棟 | 血流感染予防の取り組み ～擦式アルコールの適正使用を目指して～ |

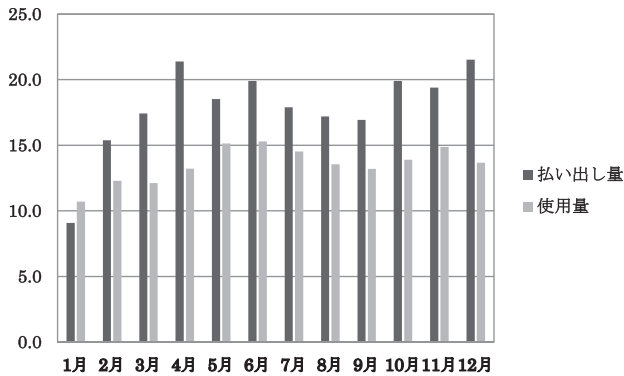


図3 年間の1患者1日当たりの払い出し量・使用量の推移 (mL)

5. 院内研修会 (表5・6)

今年は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、院内で集合形態での研修会を制限したことにより、例年のような積極的な開催はできなかったが、10月に、Zoomのオンライン環境を整備していただき、Webを利用した研修会を院内で初めて開催することができた。

6. その他の活動記録 (表7・8・9)

ICTニュースでは、全てが新型コロナウイルス感染症をテーマとした内容となった。ASTニュースにおいて

表2 西胆振感染対策地域ネットワーク参加施設

| | 1 | 2 | 3 | 4 |
|-------|----------------------|----------|------------------|------------------|
| 加算1算定 | 市立室蘭総合病院 | 製鉄記念室蘭病院 | 日鋼記念病院 | 伊達赤十字病院 |
| 加算2算定 | JCHO 登別病院 室蘭太平洋病院 | 聖ヶ丘病院 | 登別すずらん病院 | 洞爺温泉病院 洞爺協会病院 |
| 未算定 | 豊浦国保病院 | ミネルバ病院 | そうべつ温泉病院 三村病院 | 三愛病院 |

表3 地域ネットワーク合同カンファレンス

| | 開催日 | テーマ | 参加者 |
|---------|--------|-----------------------|-----|
| 全体開催 | 3月3日 | 手指衛生の取り組み | 55名 |
| 小グループ開催 | 7月3日 | 各施設における新型コロナウイルス感染症対策 | 13名 |
| | 10月30日 | 続・新型コロナウイルス感染症対策 | 12名 |

表4 地域相互ラウンド

| 回 | 開催日 | 内容：テーマは新型コロナウイルス感染症対策 |
|-----|--------|---|
| 第1回 | 10月12日 | 日鋼記念病院 ICT が感染症病棟、6階東病棟、発熱者隔離ブース、正面玄関プレハブ等を巡視 |
| 第2回 | 10月13日 | 当院 ICT が外来、救急外来、ICU、HCU、食堂等を巡視 |

表5 ICT・AST勉強会の記録

| 開催日 | テーマ | 演者 |
|------------|---|-------------------------|
| 3月 紙面開催 | 第4回 ICT 勉強会・第2回 AST 勉強会 クスリを投与するときのコツ | 金子 圭太 |
| 7月 紙面開催 | 第1回 AST・ICT 勉強会 環境菌による感染を防ぐための取り組み ～全病棟のアイスノンカバー培養結果から実施した洗濯法の統一～ | 渡邊紗規子 平館あかね 坂本 浩一 |

表6 院内感染対策委員会主催研修会の記録

| 開催日 | テーマ | 演者 | 参加者数 |
|----------------|--|----------------------------------|-------------|
| 10月6日 Web開催 | 新型コロナウイルス感染症対応と 災害時感染制御支援チーム (DICT) | 岩手医科大学附属病院 感染制御部部长 櫻井 滋 教授 | 講堂参加 83名 |

表7 ICT News の記録 針刺しレポートは毎月1日、インフルエンザ週報は流行期毎週発行

| 発行月 | タイトル |
|-----|--|
| 1月 | 新型コロナウイルス感染症に対する対応 |
| 3月 | 新型コロナウイルス流行ってるけど、この行動っていいの？ ダメなの？ |
| 4月 | 新型コロナウイルスの院内感染はなぜ起こるのか？ |
| 7月 | どうする夏休み？ 旅行は大丈夫？ 帰省は？ |
| 11月 | 医療従事者の感染拡大のほとんどは、休憩室やロッカー室等のマスクを着用していない場面で起こっているとされています。 |

表8 AST News の記録

| 発行月 | タイトル |
|-----|---|
| 3月 | 外来で抗生剤を処方する前にぜひ、ご一読ください。 オーグメンチンのイイところ。惜しいところ。 |
| 4月 | ファーストシン® とフルマリン® は院内在庫しません！ |
| 6月 | モニタリング対象の抗菌薬が増えます！ |
| 7月 | 腸球菌⇒抗菌薬?? |
| 10月 | で、エスカレーションって何？ 管理抗菌薬使用届出票の様式変更のお知らせ。 |
| 11月 | ビクシリン注射用が採用になりました。 |

表9 マニュアル改訂

| | |
|---------|---|
| マニュアル改訂 | 〈院内感染対策マニュアル〉 17. 感染症病棟、21. ノロウイルス 〈抗菌薬適正使用マニュアル〉 VIII 外来における抗微生物薬適正使用の項目作成、IX 疾患と抗菌薬選択の項目作成、VI 管理抗菌薬の項目改訂 |
|---------|---|

も周知事項を速やかに発信することができた。マニュアル改訂においては、感染症病棟の項目を新たに作成することができた。さらに、職員にとって日常的に活用できるものを目指していきたい。

7. 院外活動

1. 荒木大輔：①疫学と統計学 アウトブレイクの調査・介入、②感染防止技術 血流感染。講師、北海道医療大学認定看護師研修センター（2020年7月6日 札幌）
2. 荒木大輔：日本感染管理ネットワーク学会理事